

文教民生常任委員会 福井県福井市視察概要

福井市は、約 26 万 5 千人の人口で、小学校が 50 校、中学校が 23 校あり、このうち小中併設校が 4 校ある。学級編成は、小学校 4 年生までは 35 人、小学校 5・6 年生は 36 人、中学校 1 年生は 30 人、中学校 2・3 年は 32 人とし、国が定める基準よりも小さい。また、小学校においては 31 人以上の学級を対象に、加配教員の配置や支援員を配置することによって、少人数指導が出来るよう配慮している。

特徴ある取り組みとして、平成 19 年度から全ての小中学校で 2 学期制を実施している。1 学期が 10 月の第 2 木曜日まであり、5 日間の秋季休みを挟み 2 学期がある。（1 学期の途中で夏休み 2 学期の途中で冬休みがある）終業式や始業式、テスト期間を減らし、その時間を授業時間に充てることで授業の充実を図るとともに、休み期間中にしっかり復習をさせることで学力向上につなげている。

また、平成 22 年度から実施している中学校区教育では、同じ中学校区にある幼・保・小・中が一体となり、子どもの学びの連続性や継続性を持った教育（縦のつながり）と、子どもが将来にわたって地域づくりに貢献できるよう地域と協働した活動（横のつながり）の充実を図っている。小中学校の教員による交流授業や地域と生徒の合同あいさつ運動、学校と地域協働の取り組みを公開する教育ウィークなど、学校間での連携また学校・家庭・地域との関係を深める取り組みを実践しているほか、小学校・中学校における体験入学や児童・生徒間の交流活動などを実施することで、入学・進学への抵抗感の軽減につなげている。

福井市の学力レベルは非常に高く、平成 27 年度の全国学力・学習状況調査では、全国平均を上回る。学力向上のための取り組みとして、学力テストの結果を学力向上プランに活かす P D C A サイクル、指導主事による授業へのアドバイス、授業公開などに取り組む一方、学習の遅れがちな生徒に対して学習会を開催するなど、子どもたちと向き合うことに心がけている。また、縦持ちという伝統的な授業スタイルで授業を教えている。例えば、通常 3 年生の担任は 3 年だけの受け持ちであるが、1 年生、2 年生の授業も受け持っている。

福井市は、もともと地域のつながりが深く、保護者からのクレームや生徒間のいじめ、不登校は他市に比べ少ない。そうした地域性に加え、家庭学習の習慣化（宿題、復習をしっかりとやること）など、基礎・基本の定着が結果として学力向上につながっているとされている。

文教民生常任委員会 滋賀県彦根市視察概要

彦根市は、約 11 万 2 千人の人口で、小学校が 17 校、中学校が 7 校あり、そのうちの 1 小学校 1 中学校が施設分離型（施設隣接型）の小中一貫教育校として「鳥居本学園」が平成 27 年 4 月に開校した。鳥居本学園は鳥居本学区にある 1 小学校 1 中学校を小中一貫教育校としたもので、児童・生徒数は小学校が 123 名、中学校が 64 名と非常に小さな学校だった。鳥居本学区では児童・生徒数の減少が課題となり、特色ある学校づくりが急務になったことが、小中一貫教育校設立の経緯である。

特色ある取り組みとして、9 年間を見通した英語教育、タブレットパソコンを使用したグループワークやディスカッションによる「考える力」を育てる教育、郷土の自然を利用した環境学習や地域の住民とのふれあい学習といった郷土に根ざした教育があげられる。現在鳥居本学園では、施設隣接型小中一貫校としての実績の積み上げを行っているところであるが、英語と総合学習における 9 年間を通したカリキュラムの開発は出来上がっており、一定の成果をあげている。

鳥居本学園の 1 番の課題は、児童・生徒数の減少である。市内全域の児童・生徒を入学対象としているが、スクールバスの整備ができておらず、学区外からの入学希望があっても、中学生はまだしも小学生が電車で通学するのは困難で、学区外からの入学者が少ないのが現状である。スクールバス整備の要望もあり、市教委としても受け止めてはいるが、財政的に厳しい状況である。また、施設隣接型といっても、小学校と中学校の校舎の距離が 200m ほど離れており移動に約 5 分かかるため、頻繁な行き来がしづらい。月に数回は行っているが、小中学校の教諭間の日常的な交流、会議の設定が難しいことか課題となっている。

鳥居本学園では小学校 1 年生から 9 年間を見通した英語教育を実施しているが、これは鳥居本学園が始まりとなったものである。来年、彦根市内 17 小学校のうち 11 小学校が教育課程の特例校として文部科学省に申請しており、認められれば鳥居本学園の英語教育を導入することになる。残りの 6 校についても翌年に申請し、すべての学校で鳥居本学園の英語教育を導入する予定である。しかし、今後すべての学校を小中一貫校にするまでの計画には至っておらず、「連携」を強化していく段階である。